

2021年2月の行事予定表

1	月		16	火	
2	火		17	水	
3	水		18	木	祈祷会
4	木	祈祷会	19	金	
5	金		20	土	
6	土		21	日	礼拝式
7	日	礼拝式(聖餐式)、教会役員会	22	月	
8	月		23	火	
9	火		24	水	
10	水		25	木	祈祷会
11	木	2, 11集会(信教の自由を守る日) 於、日本キリスト教団・岡山教会	26	金	
12	金		27	土	
13	土		28	日	礼拝式
14	日	礼拝式			
15	月				

2月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます。

編集後記

- ◇ 最近のデボーションメールに、「神のご計画が、私の予定表にそって前進すること」を願っていないかという問いかけがありました。祈りがなかなか聞かれないと、「神様もスピード感を持って」ほしいと嘆く。心当たりのある祈り方でした。
- ◇ 祈りがきかれないと感じたときこそ、神様のご計画があるという信頼を失わずに祈り続けたいと思いました。
- ◇ 今月号はお二人に証をお願いしました。それぞれのみことばを味わってお読みください。月報が、離れている皆さんを繋げるものになりますように！

教会月報

2021年2月

No.357

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

私の信仰

「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、
いつまでも残ります。その中で最も多いなるものは、
愛です。」

コリントの信徒への手紙1 3章1 3節

今月はドイツ初の女性首相として16年間激務をこなしてこられた、アルゲラ・メルケル氏の著書「わたしの信仰—キリスト者として行動する」2018年11月(新教出版社発行)を紹介したいと思います。

メルケル首相は1945年7月17日、ドイツ連邦共和国のハンブルク生まれ。当時ドイツは東西に分裂していたが、ハンブルクは西ドイツの大都市であった。彼女が生まれてから父親(ホルスト・カスナー)は牧師として東ドイツに赴任します。自由主義の西ドイツから「宗教はアヘン」と言われる環境に飛び込む結果となる。メルケル氏は大学で物理学を学びやがて、ベルリンの壁崩壊(1989年11月)を経験し、政治の世界に入る。そして、連邦議員から大臣を経て2005年首相へと駆けあがります。

彼女の基盤はキリスト教の信仰にあり、激動する環境の中にあって、動じることなく政治的(EU問題・難民の受け入れ・原子力発電の廃止、再生エネルギーの取り組み・信教の自由等)に果敢に挑戦されています。

冒頭の聖句は、堅信礼(幼児洗礼を受けた人が自身で信仰告白する事)で選んだものです。それは信仰的にも、政治的にも一環として彼女を支えるものでありました。「信じる」ことに関して、妄信を戒めています。「希望」についてノアの洪水を取り上げ、絶望から希望が語られています。最後の「愛」について、一番難しいが重要であり、ヨハネ福音書にその愛が隠されていると。あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。という掟は、あなた自身を理解する事から始まると語るのが印象深い。

牧師 永松 清

謹賀新年



新年礼拝はウェブ配信を行いませんでしたが、1月1日に例年通り行いました。6名の参加でした。その礼拝直後にA師のご親族一家が6名ほど来られました。例年は教会員のご家族も含め多くの参加があり、恒例のピザ餅もいただきますが、今年は会食も避け、少しの間の談笑で解散致しました。

礼拝は昨年に続きweb配信を主とし、ネット環境に無い方のために会堂での礼拝を行っています。①受付での手指消毒②参加者の署名の廃止③マスクの着用④献金箱を回さない⑤集会中は常に窓を開けて換気する⑥プログラムでは讚美を減らす、などの感染症対策は引き続き行っております。(礼拝中はとても寒いですが、その用意をしてお越してください。)

交わりが教会の良いところでしたので、さみしい限りですが、収束を祈り再会を待ち望みましょう！

また、毎週web配信のための複雑な作業を行ってくださっているY兄のためにもお祈りください。

私は二〇〇八年一月に岡山へ転居して満十三年になりました。(翌年二月に転入会)
『目が見もせず、耳が聞きもせず、人の心に思い浮かびもしなかつたことを、神はご自分を愛する者たちに準備された。』(「コリント2」:9 聖書協会共同訳)
この聖書の御言葉を全身全霊で実感しつつの転居だったことが当時の日記に書いてありました。
岡山ナザレン教会でのお交わりの中で「聖歌隊」の可能性を感じてご提案。二〇〇八年五月〇兄を音楽監督にお願いして発足。その後は〇姉、F姉のご指導によって、二〇二〇年コロナ禍前まで聖歌隊は続いていました。いっぽう二〇一一年から「部会」というものが始まったので、私は「伝道部」「教育部」「月報編集委員会」などのメンバーになり教会奉仕をさせていたできてきました。
毎週日曜日の永松先生のメッセージのほか、毎年の特別集会にお招きした講師十一人の先生方(二〇〇九年以降)から受けた恵みや信仰的刺激を、昨年春にコロナ対応でYou-tube 礼拝になって以降、月報のバックナンバーを読み返しながらゆっくり振り返っています。

目が見もせず、耳が聞きもせず、人の心に思い浮かびもしなかつたことを、神はご自分を愛する者たちに準備された。

こうしてあなたの手の業すべてについて、あなたの神、主はあなたを祝福される



日めくりカレンダーのめぐみ

S.O.姉

我が家では、朝食前に、夫が日めくりカレンダーを読むのを習慣としています。11月23日(勤労感謝の日)は、「穀物を収穫するときは、畑の隅まで刈り尽くしてはならない。収穫後の落ち穂を拾い集めてはならない。レビ 19章9節」というものでした。

私は、早速図書館でミレー作品集を借り、落ち穂を拾う三人の女性が描かれている「落ち穂拾い」を二人で見ました。そして、旧約聖書、「畑で穀物を借り入れるとき、一束畑に忘れても、取りに戻ってはならない。それは、寄留者、孤児、寡婦のものとしなさい。こうしてあなたの手の業すべてについて、あなたの神、主はあなたを祝福される(申命記 24-19)」を読みました。また、描かれているナオミ、オルパ、ルツの三人の寡婦たちが、落ち穂を拾う背景を「ルツ記」から伝えました。

当時、農村は疲弊し、農民は困窮した生活を強いられていた。にもかかわらず、主の教えに従い他者への労わりを当然のように守る農民たち。弱さを知ればこそその労り合いです。夕暮れの農地で頭を垂れる「晩鐘」のからは、神に一日の感謝と執り成しの祈りが聞こえてくるようです。敬虔な信仰の姿を重ね合わせて鑑賞できました。

何気なくみ言葉を朗読し、名作を称賛して眺めるだけでは及ばない深い真実を、夫と共有することができました。日めくりカレンダーから、思わぬ発展をし、夫と共に聖書を読む機会が与えられたことを大変嬉しく感謝しました。



岡山生活 13年

D.T. 姉

いつになつたら以前のようには伸び伸びと教会活動ができるのかしらと思いつつ、待てよ、今の状況は神様が何かを示しておられるに違いない、とも考えます。そこで私は、毎朝の聖書の時間の過ごし方を工夫することにしました。まずきょうの聖書箇所を黙読する。次に声に出して読む。そして黙想する。思いついたことを日記に書く。教会活動が制限されている中であつても、神様は変わらず私たちを導き守ってくださるお方です。この神様の指先の動きを聖書の中で見落とすまじ、という期待で毎日の聖書の時間を過ごしています。
ひとり暮らしなので、時おり、信仰の友とオンラインで聖書から気づかされたことや発見した恵みを分かち合うひとときが岡山生活十四年目のオアシスになっています。
一月は、五十四年前(十七歳)の私が初めて教会の礼拝に出席した忘れられない季節です。初心忘るべからず、と思いを新たにしています。